シリーズ 優良事例紹介

交通事故防止!! わが社の取り組み

第9回 根本運送株式会社（千葉県船橋市）

『広報とらっく』では、トラック運送事業者の各企業での優良な交通事故防止対策の様子を紹介しています。
今回は、M&Aを機に安全衛生管理体制を確立させるとともに、安全性向上への取り組みに一層力を注いでいる、千葉県船橋市の根本運送㈱を紹介します。

M&Aをきっかけに安全指導強化

「安全第一」旗印に遵法意識を向上

安全会議では、事故を起こさなかったドライバーが事例を発表し、事故防止への取り組みを水平展開している

「輸送の安全はわが社の生命線」トップの方針を示し安全対策を進める

星野　泰彦
専務取締役

根本運送㈱（星野勝美代表取締役）は、大型車により工場出荷製品を近畿地方などに輸送しているほか、タイヤの原料やカルシウムなどの化学品原料の輸送、またパンの原材料となる小麦粉を輸送するなど、多彩な荷物の輸送を手がけている。

同社は昭和26年に東京都で創業し、平成14年に船橋市に本社を移転した。その頃、当時の社長が同社の事業の売却を検討。群馬県太田市にある太田運輸㈱（同）が同社の事業を取得することになり、15年に同社の全株式が太田運輸へ譲渡された。それにより、同社は太田運輸のグループ企業として新たな一歩を踏み出すことになった。同社の星野泰彦専務取締役は、太田運輸による同社の事業の取得以前はサラリーマンをしていたが、21年に同社の専務取締役に就任した。

星野専務によると、M&A以前の同社の社員は「法令遵守」という意識に乏しく、そうした社風も影響して事故は少なくなかったという。しかし、「運輸安全マネジメント制度」が18年10月に導入されるなど、運送事業者が自主的かつ積極的に輸送の安全への取り組みを推進し、安全性を一層向上させるという大きな流れがトラック運送業界に生まれていた。同社においても、そうした業界全体の流れを受けて、安全に関してトップの方針を示し、安全輸送に積極的に取り組んでいくこととなった。

同社の運輸安全マネジメントでは、表1の通り、安全方針を「輸送の安全は我が社の生命線」と定めている。「安全第一」で業務を行い、荷主から信頼を得ることで、自社の経営が継続でき、ひいては社員の生活も維持・向上させることができるのである。同社では「安全第一」という確固たる姿勢を社内外に示すため、車両にも「安全第一」を掲げて運行している。

大型ウイング車は安全への同社の姿勢を示すために「安全第一」を掲げている

表1　事故防止のための安全方針

『輸送の安全は我が社の生命線』…社長方針

安全軽視、目先の利益優先の会社はいつか必ず滅びる。我が社は運輸業を通じて社会に末永く貢献するために、地道に安全第一で業務を行う。安全に努めかつ荷物を大切に扱うことでお客様から信頼を勝ち得ることがもっとも大切と考える。

面接で応募者を事細かにチェック ドライバー採用が安全教育を活かす決め手に

さて、M&Aにより同社の経営陣が刷新されると、同社では残ったドライバーに対して、「従前通りのやり方ではなく、ドライバー全員が法令遵守の意識をもち、より安全性の高い会社へと成長していこう」と呼びかけるとともに、社内組織の見直しを実施。また、安全教育・指導も強化し、会社全体を良くしていくための取り組みを果敢に進めた。一方で、こうした社内の変化に不満を抱いたり、取り残されたドライバーは、同社を退社していった。M&Aをきっかけに、法令遵守の意識がドライバーに植え付けられたことで、同社における安全性向上への取り組みが加速していくことになった。

ところで、トラック運送業界全体の課題となっているドライバー不足は、同社にとっても深刻なものになっている。しかし、「大型免許を取得している人なら誰でもいい」という姿勢で採用を行うと、安全への意識に乏しく改善への意欲も低い人材を獲得してしまい、これまでの同社の改革路線に悪い影響を与える事態にもなりかねない。「朱に交われば赤くなる」という言葉があるように、人は関わる相手や環境によって、良くもなれば悪くもなる。一部のドライバーの言動により、法令遵守の意識を育んできた多くのドライバーが悪い方向に引っ張られるようでは、会社全体として「安全第一」の輸送を継続していくことは不可能となる。

そこで同社では、「安全第一」の輸送の継続を図るために、社会保険労務士と相談してドライバー採用の際のチェックを強化した。面接時に、求人応募者に運転記録証明書の提示を求め、「これまでに重大な事故を起こしていないかどうか」を確認するのはもちろんのこと、現在の健康状態や「サラリーローンを利用していないかどうか」、また「会社の運営に支障を与えるような市民活動や組合活動を行っていないかどうか」など、求人応募者を事細かにチェックするようにしている。健康の悩みや経済的な苦しみを抱えた状態で乗務をしていては、運転操作に集中できず、その結果、事故を引き起こしてしまいかねない。「安全第一」を遂行する同社にとって問題のない人材かどうかを見極め、「この人なら大丈夫だ」と信頼の置ける人材を採用。3か月の試用期間の間に、業務にあたる姿勢や遵法意識の高さなどを確認した上で、本採用としている。

「輸送の安全を維持し、一層高めていくためには、安全教育を強化していくことはもちろん大切ですが、会社の考え方に共鳴し、素直に、そして真摯に物事に取り組んでくれるドライバーを採用し、育てていくことが最も大事です。社員全員が一丸となって取り組むという雰囲気を醸成できるかどうかで、安全教育を活かすことができるかどうかの明暗が分かれるといっても過言ではないでしょう」（星野専務）

集合教育から個人の意識向上へ 考えさせることでドライバーの意識を高める

同社では、22年11月に同社の全車両にデジタルタコグラフを導入。また、24年7月にはドライブレコーダも全車に搭載した。デジタコとドラレコの装着により、ドライバーは安全を意識した運転ができるようになったことで、事故発生件数は大幅に減少。また、保険を使用するような大きな事故はなくなったため、同社が契約している対人・対物保険は最大の値引き率となり、年間保険料の削減に繋がった。また、デジタコを活用してのエコドライブにも取り組み、燃費の改善も果たしている。

また、ドライバーへの安全教育にも積極的に取り組んでいった。主な取り組みとしては、①外部講師による安全に関する講義の実施、②DVDやeラーニングを使った集合教育の実施――などが挙げられる。

こうした安全への取り組み強化が評価され、同社は25年にGマークを取得している。

ところが、エコドライブへの取り組みに慣れてくると、燃費改善効果は次第に小さくなり、またそれと同時にちょっとした事故の数も増加してくるようになった。

そこで、同社では「安全への取り組みは、自社だけで進めていても限界がある」と判断し、千葉県トラック協会のモデル事業「交通事故・労働災害防止対策推進活動」に応募した。これは、安全衛生管理体制の構築を目的に県内の運送事業者が取り組んでいるもので、同社では25年～26年の2年間、同活動を通じて安全対策のさらなるブラッシュアップを図っていった。

同社における主なブラッシュアップ内容は次の通りである。

①集合教育から個人の意識向上へ

これまでの画一的な集合教育から、個人の意識向上に繋がる教育へと改善を行った。

例えば、点呼時にドライバー一人ひとりに対し、事故やクレームなどの情報をタイムリーに伝達。

②労働災害を防止するために

同社では、労働災害が少なからず発生していた。そのため、同社では同活動を通じ、「安全衛生管理規程」や「安全衛生計画」を策定。安全衛生管理体制を確立させることで、労働災害防止を図っている。

「ちょっとした油断」が事故の原因に 毎日の習慣付けで油断を断ち切る

同社では、年4回実施している「安全会議」の中で、事故を起こさなかったドライバーに「どういうところに気を付けて作業を行ったから、事故が起こらなかったのか」を発表してもらうようにしている。例えば、「作業を行う前には一呼吸付けて、冷静になってから作業を行うようにする」「バックを行う際には自分の勘や他人に頼らずに、自分の目で安全を確認してから行うようにする」など、他のドライバーから事故を防ぐための様々な意見を聞き、それを自分のものにすることで、安全性向上に繋げている。

同社では、同活動を通じて安全に対する環境整備ができたとともに、ドライバーの中にも安全意識が高まってきているという。しかしながら、さらなる事故防止のためには、時に顔をのぞかせる「ちょっとした油断」をなくす必要があるとしている。

今まさに何に注意すべきなのかを理解させることで、事故防止に繋げている。

また、個人の事故防止への意識向上を図るため、ヒヤリハット報告書（図）をドライバーに書かせるようにしている。運行中のヒヤリハット事例について、その概要や当時の周囲の状況などのほか、ヒヤリハットの原因や反省、また改善方法などについてドライバーに考えさせて、記載させる。同報告書の内容を経営陣や運行管理者などが確認し、他のドライバーにも役に立つ内容の場合には「佳作」「入選」として評価し、賞金を出している。

「ドライバー一人ひとりの意識を高めていくためには、細かい事柄を積み重ね、『安全第一』の考え方を定着させる必要があります。例えば、『車間距離を保持する』などの月間目標を定め、点呼の場などでそれをドライバーに毎日意識させる。目標を守ることを日常業務の中で習慣付けさせることにより、ドライバーの油断によるミスを防いでいこうと考えています」（同）

（取材協力）根本運送㈱
星野泰彦専務取締役

図　ヒヤリハット報告書

社長　専務

車番　氏名

いつ　5月　8日　午前　午後　7時　10分

その時の天候　晴れ　曇り　雨　雪　暮

どこで　平田道（下り）　高速道　一般道　裏道　構内

道路形態　有信号交差点内　無信号交差点内　交差点付近　直進路　カーブ路　その他（　）

道路渋滞　渋滞していた　渋滞していなかった

走行状態　発信時　走行中　徐行中　減速中　停車中

走行方向　前進　右折　左折　後退　車線変更

何をしている時　順調な道路5m手前の登坂車線を走行中

どうしたか　左カーブの上り坂を登坂車線を走行中 軽トラックが突然でてきた

略図

概要　登坂車線を走行中 軽トラック突然してきり ブレーキをかけ回避した

「災害想定」
人身事故：　擦り傷　通院　大怪我　死亡
物損事故：　小損　大破　玉突き
設備破損　道路施設　民家　公共施設　工場施設

原因・反省・改善点　全く車数がなかったことなので 見とおしの悪い場合は 事前に見ておくようにしないと思いながら走行するようにします

コメント　（隣の車線の大型と併走せず 迷う場所（車線数の増減）の確保が必要）
第1走行車線の車両速度と比較し、明らかに早い速度で登坂車線を走行（まより作為？）するのは危険！
誰がつくれた ヒヤリ？ ＝ 紳、節 ～ドライコ 映像を確認の後

☑徐作　□入選 → 掲示

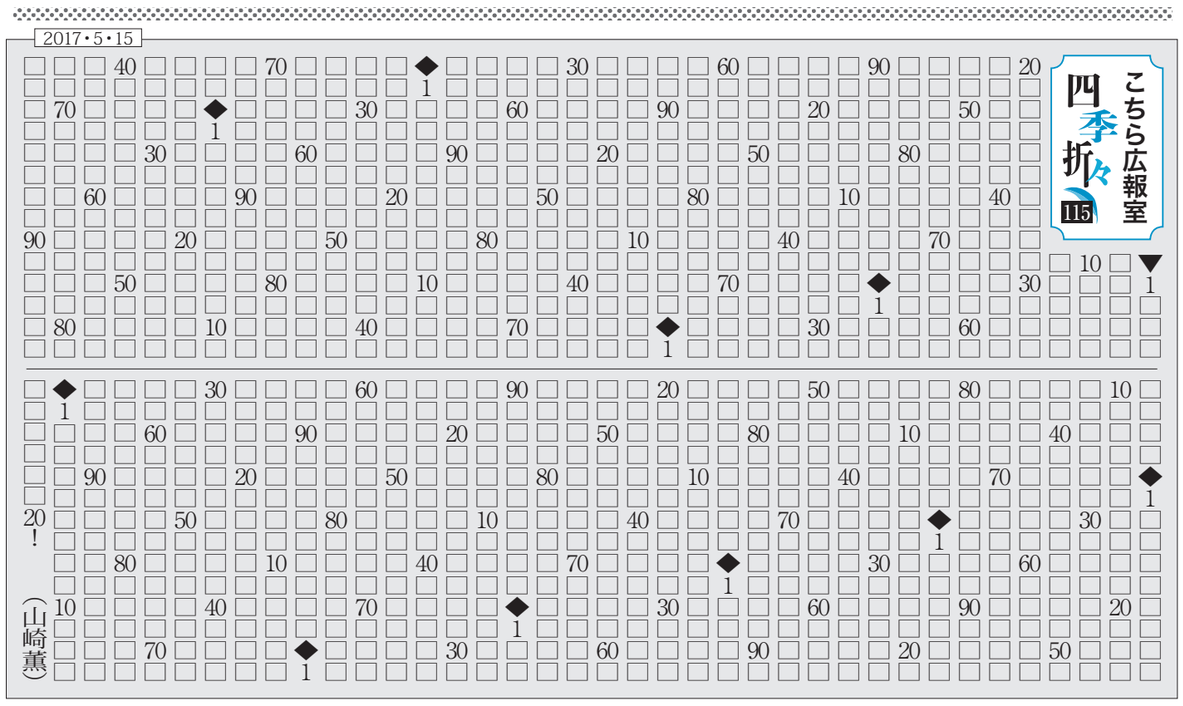
根本運送株式会社

企業プロフィール

- 社名　根本運送㈱
- 本社所在地　千葉県船橋市潮見町20-2
- 代表者　代表取締役　星野勝美
- 設立　昭和26年7月6日
- 資本金　1,000万円
- 社員数　53人（うちドライバー45人）
- 車両数　50台

こちら広報室 四季折々 115

2017・5・15



（山崎薫）